



平成30年度 新潟県大学図書館協議会研修会
2018年11月8日（木）

大学図書館における学習/学修支援： 身近な一歩を踏み出そう ～事例紹介&グループワーク～

信州大学附属図書館 管理課長
／副館長（事務担当）
森 いづみ
mori_izumi@shinshu-u.ac.jp



信大ナナちゃん
プロフィール

性格・どんな些細なことにも幸せを感じる
趣味・読書
特技・見かけによらずに詳しい
好きな食べ物・野菜系おやつとそば茶
好きな場所・ひだまり
愛読書・どくどくマンボウ青春記

信大ナナちゃん

【写真】信州大学附属図書館（左から中央図書館、教育学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部の各図書館）

自己紹介：一大学図書館職員の四半世紀

		受入	目録	電子化OA	参考	閲覧	ILL	教育	広報
東大駒図 1991年～	4年 9ヶ月	外国 雑誌	...	始めの3カ月：総合図書館で見習い					
東大総図 1996年～	3年				参考			リテラ シー	冊子
東大基盤 センター 1999年～	1年							リテラ シー	
三重大図 2000年～	7年		目録	リポジトリ	参考		ILL	リテラ シー	Web 冊子
NII 2007年～	6年	REO CLOCKSS	CAT	SPARC CiNii リポジトリ			ILL	研修	Web 冊子
お茶大図 2013年～	4年	...	図書館入試、学生協働						
信大図 2017年～	2年目	...	図書館マネジメント、人材育成、職場の環境整備、 地域連携、大学経営の一角						既存の枠組みに 収まらないことが 増えて来た

信州大学 | 附属図書館

このコマの目標と内容

● 目標

- ✓参加者の皆さんが、他館の事例を参考にしつつ、自分の館に置き換えて考えてみる
- ✓実際に取組めそうだという実感と具体的な内容を持ち帰っていただく（身近な一歩を踏み出していただく）こと

● 内容（スケジュール）

- ✓ 14:35～14:40 はじめに (5分)
- ✓ 14:40～14:45 グループワーク Part1 (5分)
＜事前ワークのグループ内共有＞
- ✓ 14:45～15:05 事前ワークまとめ&事例紹介 (20分)
- ✓ 15:05～15:25 グループワーク Part2 (20分)
＜学習/学修支援を一步前へ！＞
- ✓ 15:25～15:45 発表 (各グループ2分)

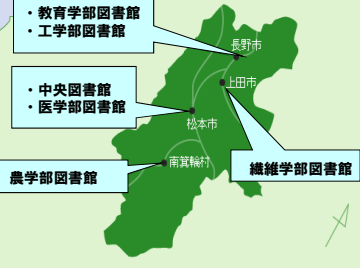
グループワーク Part1

● 事前ワークのグループ内共有（5分）

- ✓事前ワークの内容：
 - 学修支援として図書館が取り組んでいること
※学内外の図書館以外の部署と連携している場合は連携先と内容を補記
 - 上手くいっている事、上手くいっていない事（課題）
 - 研修で講師に聴きたいこと
- ✓段取：
 - 3分：事前ワークの内容をグループのメンバーに話す（1人1分）
 - 2分：1人ずつ他の2人の話に対してコメントする（1人30秒ずつ）
- ✓ねらい：
 - 既にできていることや課題を一人一人認識し、グループ内で共有することで、後半の「一步前へ」に繋げる
 - 「学習/学修支援」は多岐にわたる。図書館以外に関わる要素を確認
 - メンバー間の共通点・相違点はどんなことが挙げられる？
 - アクティブラーニングの手法として「シンク＝ペア＝シェア」を応用してみる（グループ全員が参加者。相互にタイムキーパーを担当）
 - 参考：信州大学教育学部平成29年度卒業 河原塚成美 著
『友達と今すぐできる/わかる 協同学習』（2018年1月31日）

事例紹介：信州大学附属図書館の概要

● 6つの図書館の集合体



● 平成29（2017）年度統計

	入館者	学生数	座席数	(うち、グループ 学習室の席数)	貸出冊数	蔵書数
中央	388,623	4,477	615	(42)	63,096	533,708
教育	46,770	927	155	(8)	10,854	190,145
医学	82,183	1,243	206	(8)	6,918	162,255
工学	161,663	2,424	315	(24)	22,562	132,717
農学	47,775	746	147	(0)	9,054	102,822
繊維	65,874	1,421	169	(16)	13,605	114,138

事例紹介：信州大学附属図書館の取組

● 国大図協重点領域2 知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

- ✓ラーニング・コモンズの空間整備（各キャンパスに5つの図書館）
 - ディスカッション可能なオープンスペース、グループ学習室の整備
※一部の学部図書館では検討中
- ✓学修支援サービスの展開
 - 中央図書館：ピアサポ@Lib（ラーニング/ライティング）
 - 工学部図書館・農学部図書館（試行）：ラーニング・アドバイザー
 - 教育学部図書館：分野ごとのパスファインダー作成
- ✓知の森屋どきセミナーの開催
 - 中央図書館：教員によるミニレクチャー<平成27年～25回開催>
 - 各学部図書館にもTV会議システムで配信。市民の参加もあり
- ✓展示コーナー・セミナールーム・ホールの活用
 - 中央図書館：教員や学生の企画による展示やイベントを多数開催
 - 工学部図書館：つきいちビブリオバトル、受賞学生によるポスター・セッション

事例紹介：信州大学附属図書館の取組



知の森昼どきセミナーの様子

- 信州大学 大学史資料センター第1回企画展「信州大学今昔(いまむかし)」
タイアップセミナー 「信州大学誕生」<福島特任教授>

- 山の日記念特別展「ヨーロッパ近代登山と日本書物で綴る登山の歴史①」タイアップセミナー
<人文学部・渡邊館長>



- 「マツコも知らない化石の世界」
<理学部・山田准教授>きっかけは...



信州大学 | 附属図書館

事例紹介：信州大学附属図書館の取組

セミナーで話してくれたら
お礼に差し上げますよ(渡邊館長)

(信大図書館キャラクターの)
ナナちゃんバッグほしいです(山田先生)



展示コーナーの学内外部署による活用例

- 「恐竜がいた時代の化石たち」
<理学部・自然科学館>
信州大学長期ビジョン2030
教育WTでの出会い
⇒ 知の森昼どきセミナー
⇒ 自然科学館のアウトリーチ活動
として図書館で展示
⇒ 事務の方と連携・調整して
⇒ 教員と学生によるギャラリー
トークが実現

連携の広がりと深まり

信州大学 | 附属図書館



事例紹介：信州大学附属図書館の取組

- 国大図協重点領域3 **新しい人材**: 知の共有・創出のための
〈人材〉の構築
(学習/学修支援関係)
 - ✓ピアサポ@Libによる教職員学生協働
(ラーニング・アドバイザー/ライティング・アドバイザー)
 - ✓卒業研究による「協同学習」ハンドブック作成
 - ・『友達と今すぐできる/わかる 協同学習』
ラーニング・コモンズを活用した、学生だけで作る新しい学びの形について、
さまざまなアクティブラーニングの技法をまとめたハンドブック。
検討段階において図書館職員も関わる→中央図書館に配置
作成者の学生が教職員向けセミナー「大学図書館の学習空間と学修支援
—世界・日本・信州の事例から—」(John Augeri氏講演)にも参加

事例紹介：信州大学附属図書館の取組



「協同学習ハンドブック」活用に向けて

- ↑グループ学習室の壁にコンセプトのポスターを掲示。
ハンドブックの現物は自由に手にとって使ってもらう形。
 - グループ学習室の机の上に、設置→

アクティブラーニング
の技法を知れば、
思考・議論はもっと
活発になる。深まる。



信大図書館学習サポートピアサポ@Lib

- 図書館のピアサポートによる学修支援サービスはラーニング・アドバイザーとライティングセンター2本立て
- 担当者の努力と実績によって、教職員学生協働がとても活発
→強みを更に活かしたい →ピアサポ@Libとしてリニューアル

1. ラーニング・アドバイザー (LA)

- ✓ 全学生対象。理系基礎科目、語学、レポート、図書館活用等の相談を受付。
- ✓ 平成28年度実績：450回、平成29年度：390回（体制が整わなかったため）
- ✓ 理系基礎科目の相談：9割、学部1年生からの相談：9割
- ✓ 次世代戦略プロジェクトと学内GPで財源確保

2. ライティングセンターによるレポート作成個別指導、書き方講座 (Wセ)

- ✓ 個別指導は大学生基礎カゼミ受講生に限定。書き方講座は全学生対象
- ✓ 財源：全学教育機構から
- ✓ 平成29年度前期実績：
 - ・ 個別指導：指導員7名、受講生270名、指導回数548回
 - ・ レポートの書き方講座（全4回）：前期：566名、後期：41名

※ 新入生ゼミナール科目における図書館ガイダンス 平成24年度～1年生全員受講



初年次生の学修支援が重要な信大事情

✓ 初年次生は全員松本キャンパス。

✓ 教育、工学、農学、繊維の各学部は2年進級時に各地キャンパスへ移動する。各地学部の学生が無事に進級できれば「離松」。

✓ 単位を落として松本に授業を受けに通う場合は「通松」、進級できず留年することを「残松」と呼ぶ。



【出典】信濃毎日新聞「Shinmai Young Journal」2018.3.23（赤枠は発表者作成）

信大生にとって、1年次の必修単位を落とすのは、絶対に避けたいこと

ラーニング・アドバイザーへの相談者：各地学部の1年生が約7割を占める

七夕の笹飾りの短冊にも頻出



従来の支援サービスの強みと課題①

● ラーニング・アドバイザー

✓強み：

- 学部1年が9割、理系基礎科目（数学、物理、化学等）の相談が9割を占めるといふ顕著な特徴があり、ターゲットが絞りやすい。
- 初年次教育段階における学力レベルの底上げに寄与できる。
- 「LAマニュアル」を作成し、質の担保や人材育成に貢献。

✓課題：

- 年度当初に体制が充実していることが必要だが、担い手確保が困難な状況。
 - 平成28年度～全学教育機構の教員（数学、化学）による指導の開始
 - 平成29年度～松本キャンパスの理系学部との調整により、担い手となる学生の確保に成果あり（全学教育機構長と附属図書館長が、理学部長、医学部長などと懇談）
- 繁忙期以外は相談が少なく、人材が活用できていない。
- 語学、レポート作成という支援メニューが利用実績に繋がらず、サービスのあり方の見直しが必要。

従来の支援サービスの強みと課題②

● ライティングセンター

✓強み：

- 授業（平成29年度：「大学生基礎力ゼミ」15コマ）との密接な連携により、指導員の確保（既受講生から優秀な学生をスカウト）、トレーニングが体系的になされており、指導内容の質が担保されている。
- 学生の活用度が高く（成績評価に反映）、指導の成果も見えやすい（レポートの成績が良い）。
 - 初年次で履修した科目全ての成績の平均点が、「大学生基礎力ゼミ」受講生群は非受講生群より平均点が約2点高い（※）。

✓課題：

- 体制に対して相談件数が多く、かなりの負担になっている。
- 個別指導の対象を全学に展開するのが難しい（大学生基礎力ゼミ以外の学生に対応できる受入体制を整える必要がある）。
- 前期のレポート書き方講座は授業の学生が8割。後期のレポート書き方講座は、参加者が少ない。
- 場所が比較的静かな閲覧席に隣接。話し声が気になる。

従来の支援サービスに共通する課題

- サービスが個別独立に動いており、連動していないことに起因する課題
 - ✓ 支援を受ける側の学生・勧める側の教員：分かりにくい、使いにくい
 - ✓ 支援する側の体制：体系的サービスとして展開しにくい、融通が利かない（図書館担当者の悩み：課題は見えているけれど…）
 - ✓ 教学組織においても、教育改革の推進の中で学修支援は重要課題だが、それぞれの枠の中での検討にならざるをえなかった
 - ・ラーニング・アドバイザーは全学教育機構、ライティングセンターは高等教育研究センターとの連携。
 - ・全学部学修支援サービスを調査→学部固有の取組もある。
 - ・担当はそれぞれ。学務部（学務課、共通教育支援室）、学部事務など
 - ・リソース（財源、人材）の取り合いになってしまっている(?)
 - ✓ 目標・計画管理上の課題：
 - ・中期目標・中期計画において、異なる事項に異なる責任部局で同様の内容が記載
 - ・初年次教育全体で「ニーズの把握」「担い手の安定的確保と教育」「財源の安定的確保」が必要

関係部署の協働による課題への取組①

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案
 - ✓ 附属図書館のニーズ調査（アンケート：図書館に望むサービス）、高等教育研究センターと各学部の懇談会（各学部に進学する前の初年次生へのサポート状況）から、図書館における学修支援サービスへの学生・教員からのニーズの高さは明らか
 - ✓ 学内の学修支援サービスを調査し一覧表を作成。第一段階として、全学的見地から、初年次生へのサポートの充実が急務
 - ✓ 解決策の方針：図書館における学修支援窓口の一本化
 - ・学生が必要とする時期に十分な内容の支援が受けられるよう、ラーニング・アドバイザー（LA）とライティングセンター（Wセ）を再編し、体系的なサービスに。対象・内容・体制を整理して柔軟性を高める。
 - ✓ 具体的な方策案：
 - ・Wセの個別指導の対象を基礎力ゼミに特化せず、教養ゼミ（レポート課題が成績評価になる授業）にも広げることにより、全初年次生をターゲットとする。
 - ・Wセの予約時、基礎力ゼミ受講生以外の場合は、LAの予定を確認し、近い分野のLAに廻せることとする。

関係部署の協働による課題への取組②

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案
 - ✓ 量的な問題
 - 前期のWセは基礎力ゼミ受講生だけでもオーバーフローしている状況
 - LAの繁忙期と重複することも考えられる
 - ✓ 質的な問題
 - Wセの指導員は、基礎力ゼミの既受講生を充てることで質を担保している。異なる内容・分野のレポートを指導できるのか。
 - 理系基礎科目の指導のみを行っているLAに、適切なレポート指導ができるのか。平成29年度からは院生のみならず学部生に広げている。

関係部署の協働による課題への取組③

- 課題解決に向けた具体的な進め方を図書館が提案
 - ✓ 量的な問題への対処
 - LA及びWセの体制を厚くする。
→ 予算の確保が必要
 - LAのレポート指導は、Wセの予約システムで業務量を把握する。
→ e-learningシステムでの設定と運用方法を検討中
 - ✓ 質的な問題への対処
 - 「教養ゼミ等での授業レポートの基本型」を作成・提示することによって、Wセの指導員が基礎力ゼミ以外の授業のレポートを指導する際の根拠とする。
→ 新生に配布するハンドブックを改訂
 - LAは、Wセのレポート書き方講座、指導員のための研修を、業務として受講することとする。
→ 平成29年度後期の「レポートの書き方講座」受講や、平成30年度合同研修会開催など

関係部署の協働による課題への取組④

- 教育に「組み込まれた」なサービスであるために
 - ✓ 関係者との綿密な打ち合わせ
 - ・ 個別の打ち合わせ→全ての関係部署が顔を合わせた打ち合わせ
 - ・ 教育担当理事を交えた打ち合わせ
 - ・ 教務委員会、教育・学生支援連絡調整会議での情報収集と報告
 - ✓ 信州大学長期ビジョン2030 教育WTにおける議論
 - ・ 「中長期的な課題の洗い出し」において、大学入学者の基礎学力・思考力の低下傾向を予測し、プラスに転じるために、図書館における学修支援策を教育改革の流れに組み込むことを提唱→前倒して部局推進プロジェクトとして提案
 - ✓ 財源の確保
 - ・ 信州大学次世代戦略プロジェクト【中期目標達成推進経費】部局推進プロジェクト（全学教育機構、高等教育研究センター、学務部との連携）による予算獲得
→3年プロジェクト→時限ではない経常経費の獲得を目指す
 - ✓ 第3期中期目標における年度計画の整理
 - ・ ピアサポートによる学修支援項目を一本化（担当：学務課、附属図書館）
 - ・ 図書館そのものの存在感を示すことよりも「埋め込まれる」ことを優先

課題解決を成功させるための要件①

- 新学修支援サービス「ピアサポ@Lib」
 1. 体制面で教育に組み込まれていること
 - ・ 両者が緊密に連携し、ピアサポ@Libとして一本化したうえで、ライティング支援機能とラーニング支援機能を持たせ、それぞれの機能を強化
 - ・ 従来図書館の1階と2階に分かれていた場所を、2階の共同学習スペースに集約
 - ・ 支援の担い手となる学生の確保については、各学部からの協力を得る
 - ・ 学生相談センターからの紹介もあり得る。発達障害を理解するセミナーを開催
 - ①ライティング支援部門：ライティング・アドバイザー
 - ・ 大学生基礎力ゼミ（2017年前期：14コマ）特化から、レポートを主な成績評価手段とする教養ゼミ（2017年全95コマ中、前期：18コマ、後期：25コマ）に拡大することで、すべての初年次生を対象とする。
 - ②ラーニング支援部門：ラーニング・アドバイザー
 - ・ 理系基礎科目を中心としつつも、語学やレポート作成の実質的支援が可能となるよう、教育プログラムの改善、体制強化を行う。

課題解決を成功させるための要件②

● 新学修支援サービス「ピアサポ@Lib」

2. 活用面で教育・学習活動に組み込まれていること

- ニーズがあり体制が整っても、活用されない状況が想定される。サービスを初年次教育の全学的な補完システムと明確に位置付けること、授業担当の教員に活用され、学生（支援される側・する側）のモチベーションを高める工夫が必要不可欠。

→未履修問題（受験科目と必修科目のズレ）を解決するための授業との連携等（共通教育の在り方見直しとの連動）

- 支援を必要とする学生の自覚と行動を促すには、教員からの働きかけが効果的と考えられる。

→入学時からの広報、授業内での紹介、単位認定との連動

→『新入生ハンドブック』『レポートの基本形』の活用

ピアサポ@Libのリニューアル後

● アドバイザーの学生たちの声

- ✓ 合同の研修会を受講して、顔の見える関係になり、お互いがやっていることがわかるようになり、自信を持ってもう一つのサービスを紹介できるようになった。
- ✓ 予約等のシステム整備は今後の課題だが、場所が隣り合っているのでライティング・アドバイザーのレポートの予約が一杯の時に、すぐにラーニング・アドバイザーに回すことができた。

● プロジェクトを主導する教員からの声

- ✓ 全学部の初年次生にとってハードルが低い図書館にあるからこそ意味がある。
- ✓ 授業外の学びの理想は、学生同士の学び合い。 教員は困ったときの最後の支え手でありたい。
- ✓ サービスの活用と担い手確保について、学生・教員双方に、機会を捉えて伝えたい。

● リニューアル後の利用状況

- ✓ ライティング・アドバイザー：7名体制、のべ272回（6/4時点）
→例年より落ち着いてスタート。 授業のレポート書き直し締切りを前にフル予約。
- ✓ ラーニング・アドバイザー：5名体制、61件（5/31時点）
→例年より相談者が来始める立ち上がりが早かった。質問も多め。
→来館が学修相談目的か否か、リピーターか初回か等、記録を取っている。

※様々な指標で、サービスの効果の分析と評価を行う予定

ピアサポ@Libの様子

- リニューアル後 →
2人掛けのテーブルと椅子を
追加して、全部で6セット設置。

手前の3組がライティング。
奥の1組がラーニング。

ライティングであふれた相談者を
ラーニングにバトンタッチできた。



- 合同研修の様子
テーマ:傾聴力UP

←ライティング・アドバイザー
とラーニング・アドバイザー、
教員・職員が顔の見える
関係に。

グループワーク Part2-1

- 学習/学修支援を一步前へ！ (20分)

✓段取：

- ・ タイムキーパはファシリテータが担当
- ・ 基調講演・各館報告を聴いて自館の取組に活かせること・新たに取り組んでみたいことを各自考える
【メモを取りながら3分】
- ・ メンバーが1人ずつ自分が考えたことを話す。
それに対しグループメンバー2人がコメントする。
2人目以降繰り返す【トータルで10分】
- ・ メンバーからもらったコメントを踏まえて、各自が「一步前へ」進めるための方策を考える
【メモを取りながら3分】
- ・ グループ内でそれぞれの方策を共有しまとめる【2分】

グループワーク Part2

- 学習/学修支援を一步前へ！（20分）

- ✓ねらい：

- アクティブラーニングのプロセスは、「内省」と「対話」の両方の要素があることで深化することを踏まえた構成で、グループワークを実践

- 参加者が、それぞれできそうなことを

- 「一人で考える」
 - 「グループで共有し、意見をもらう」
 - 「意見を踏まえてもう一度考える」
 - 「考えたことを共有する」

というプロセスを経ることで考えや思いを整理し、実現に結び付ける

発表！

- 各グループから2分ずつ、グループのまとめを発表する（各グループ2分）

- ✓ グループの代表者が発表してもよし
 - ✓ 全員が自分の言葉で語るもよし（←といいつつ、コチラがオススメ）

- ✓ねらい：

- 最終的に人前で「宣言」することで、実践に結び付ける



Good Luck!

さいごに

- 図書館の外側から発想する
 - ✓ 「図書館が」何をすべきか(したいか)も大事。しかし、それだけでは、なかなか変化は起こせない
 - ・ 学生は、教員は、何を求めているんだろう？
 - ・ 大学は、社会は、何を求めているんだろう？
- 自分たちも含め、課題解決のリソースになる
 - ✓ 新しいことをしようとする人は結構孤独
 - ・ 図書館員自身が、課題解決に導くためのリソースになれる
 - ・ あなたの周りに困っている人はいませんか？
 - ・ 話せる「人」をつくるのが、第一歩
- 理想を描きつつ身近な一歩を踏み出す
 - ✓ 正しい答えを誰かが知っているわけではない
 - ✓ Win-winは、いかに相手の文脈で発想できるか
 - ・ 初めから完璧でなくてもいい
 - ・ 最初の一歩をいかに踏み出すか

ヒントは外にある
答えは中にある

参考事例

- 森いづみ「今、大学図書館に求められている役割とは？お茶の水女子大学における教育改革と入試改革の実践から見てきたもの」 館灯(55) 23-32(2017年)
https://doi.org/10.19006/kanto.55.0_23
- 餌取直子「利用者サービス、リテラシー、コモنز:空間設備と人的支援をつなぐ～お茶大の事例から～」
平成30年度国大図協東京地区・関東甲信越地区合同フレッシュパーソンセミナー(2018.09.21) <http://hdl.handle.net/10083/00062524>
- 坂本拓「学術情報リテラシー教育の現状」
平成29年度大学図書館職員短期研修(2017.10)
<https://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h29/lib-04.pdf>